
盟和産業株式会社
2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年12月2日



- I 第2四半期決算レビュー**
- II 通期業績見通しおよび
重点課題の取組み**
- III 株主還元**
- IV (ご参考) 売上高の内訳等**

I 第2四半期決算レビュー

第2四半期決算の主なポイント

半導体不足等
影響あるものの
コロナ禍の前年
同期比増収

前年同期比
増収

前期から取組ん
でいる収益改善
諸施策の効果

営業
黒字化

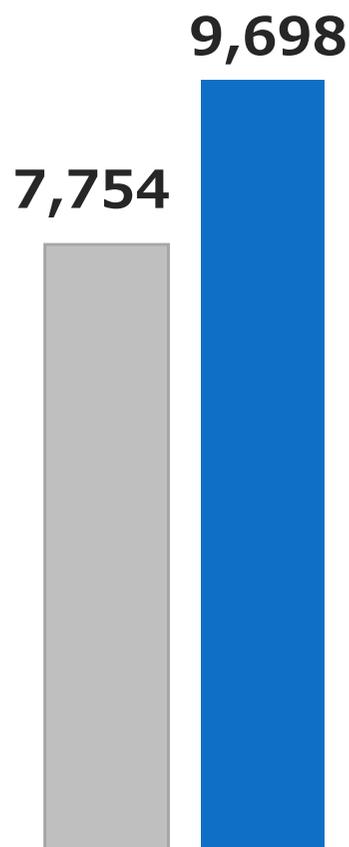
住設資材堅調、
売上・利益ともに
コロナ前の水準
を回復

住宅
堅調

連結業績の概要

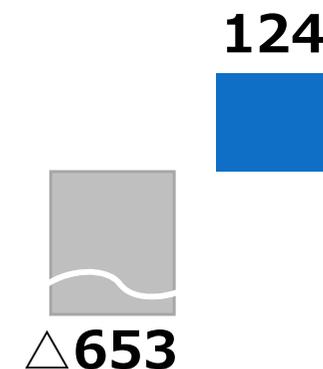
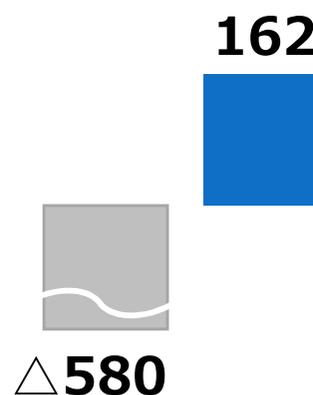
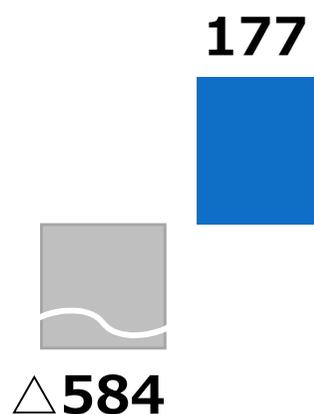
(百万円)

■ 2021/3期2Q
■ 2022/3期2Q



部品供給制約による
自動車減産あったが
前年同期比25%増収

損益黒字化



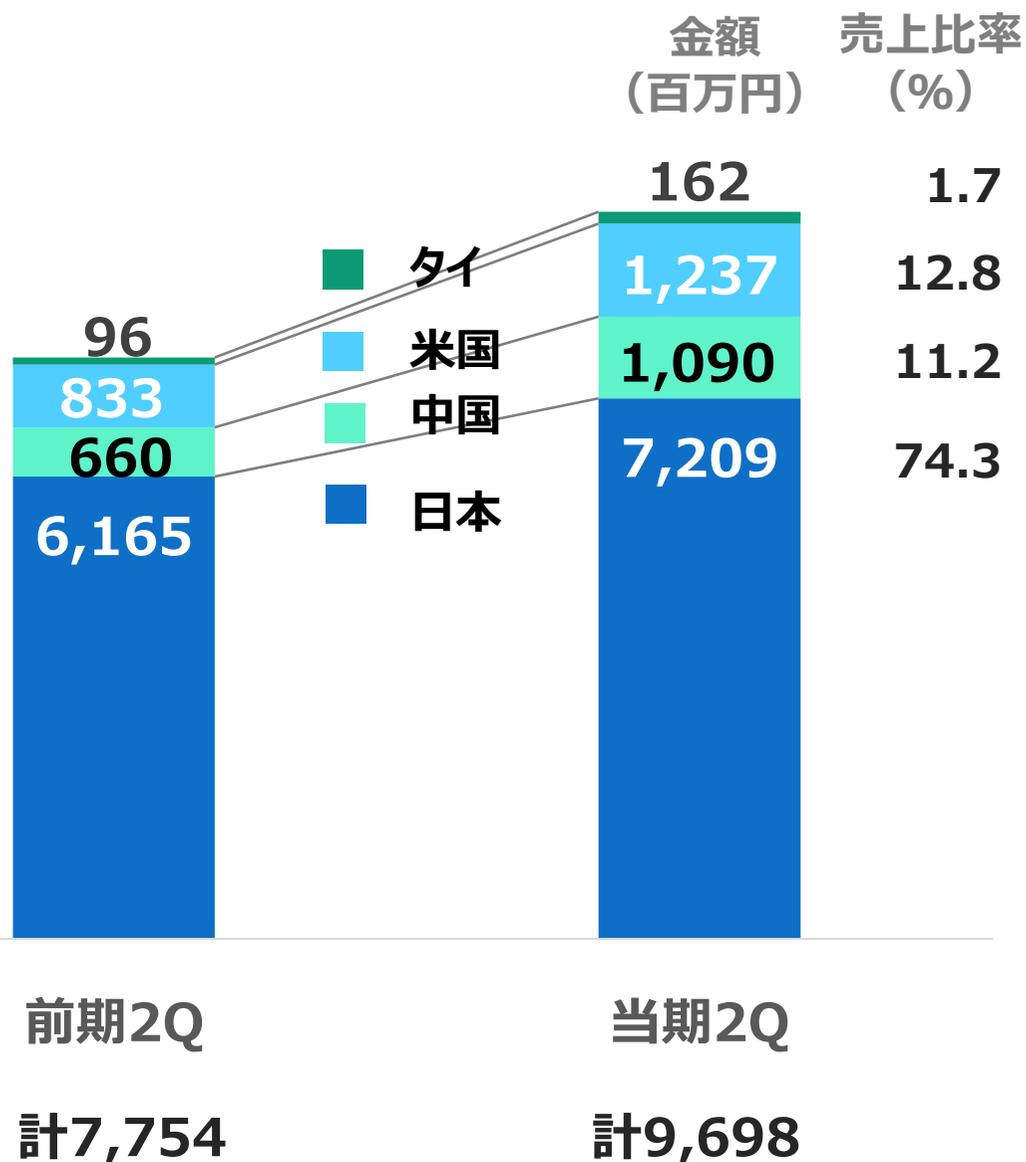
売上高

営業利益

経常利益

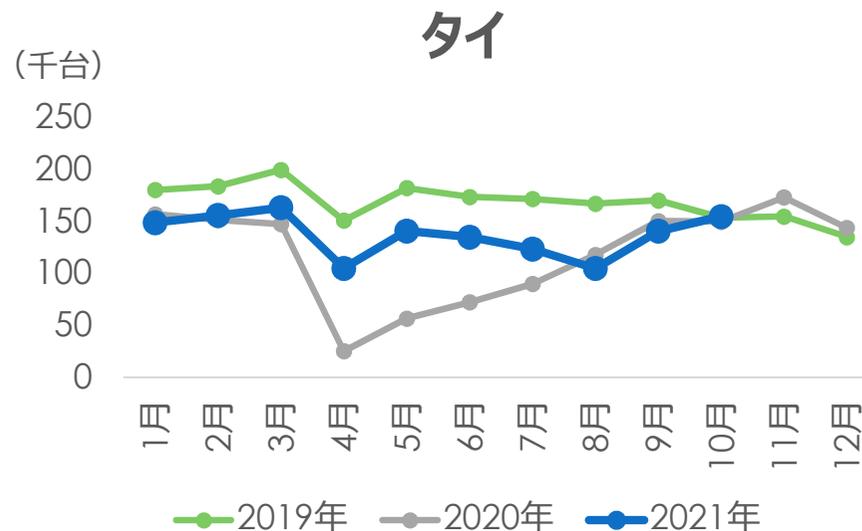
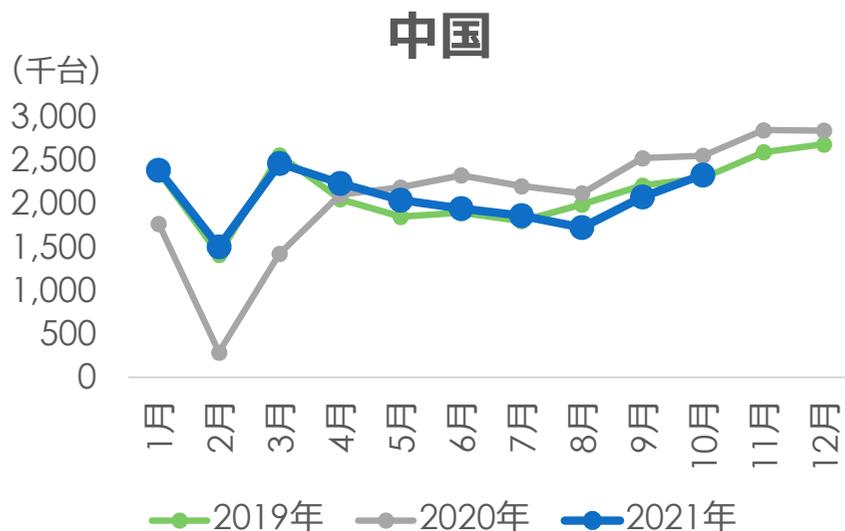
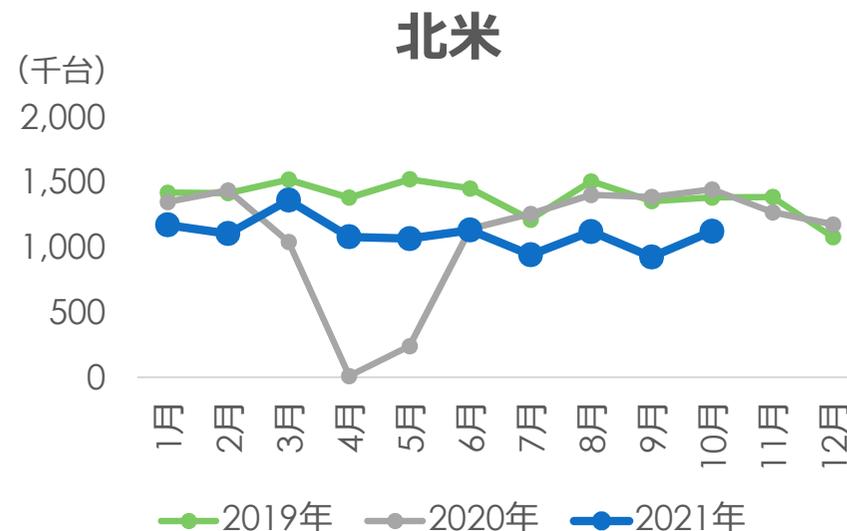
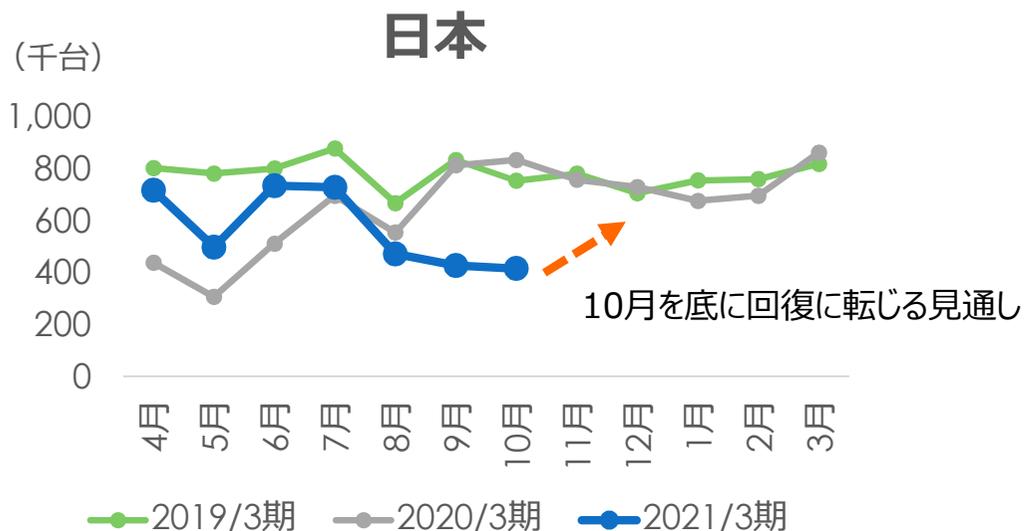
親会社株主に帰属する
四半期純利益

地域別売上高



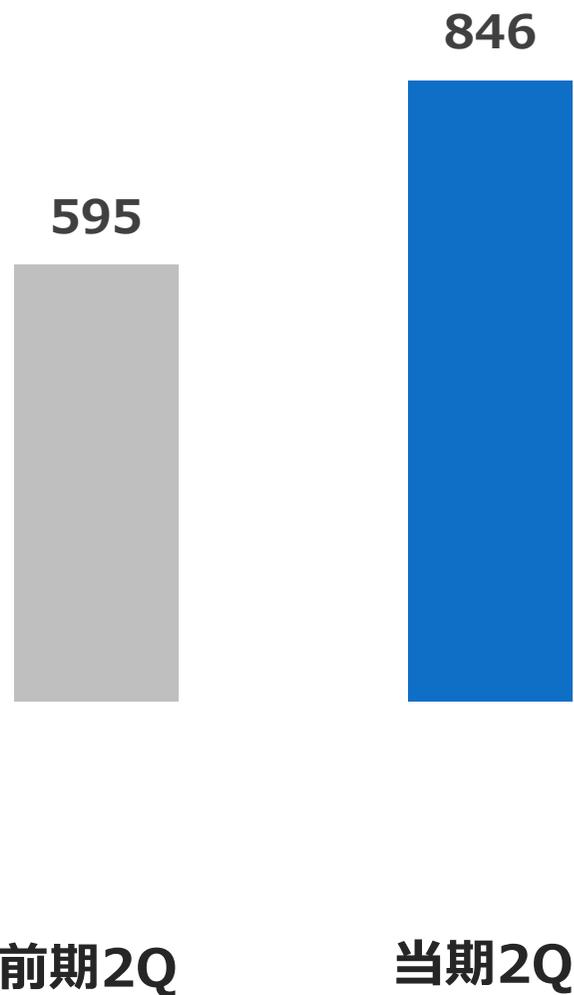
- 全ての地域で増収
- 海外売上比率25.7%
前年同期比5.2ポイント増加

自動車生産台数推移 (月別)



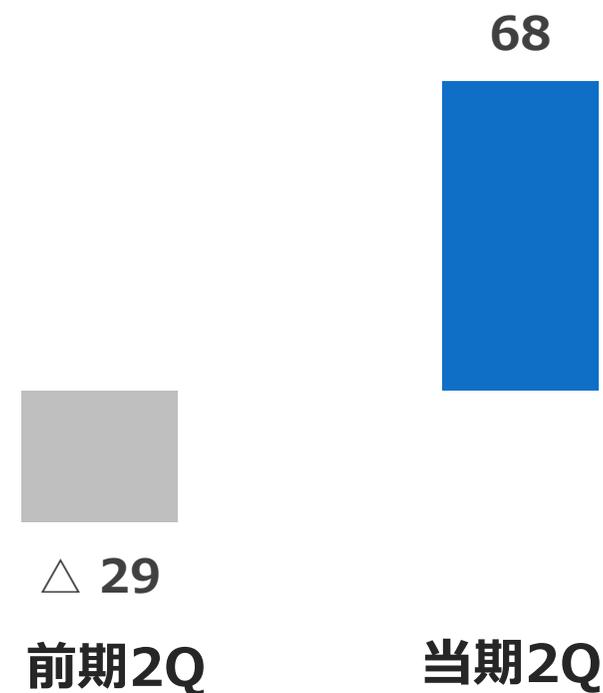
住宅セグメント業績

売上高



セグメント利益

(百万円)

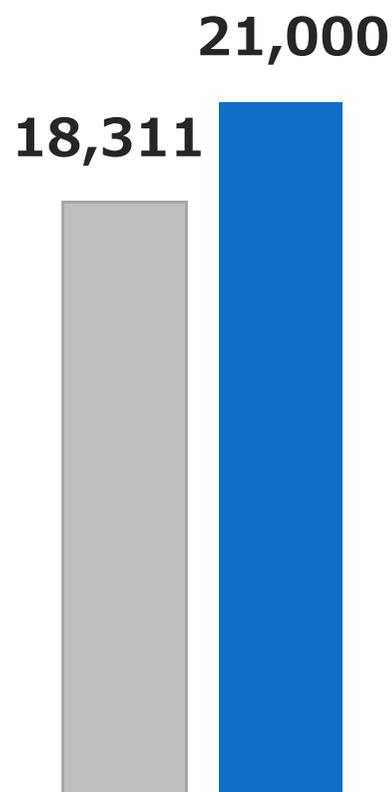


Ⅱ 通期業績見通しおよび 重点課題の取組み

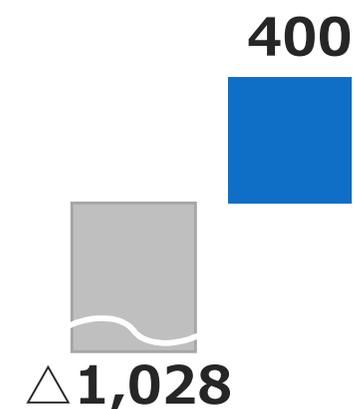
通期業績見通し

(百万円)

■ 2021/3期実績
■ 2022/3期予想



2021年5月公表の業績予想値を変更しておりません



売上高

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する
当期純利益

中期経営計画RD365 概要

- 期間：2020年3月期～2022年3月期（3年間）
- 重点課題
 - ◆ 収益力強化 グローバル各拠点の収益化
 - ◆ 市場開拓 内外連携強化し受注拡大
 - ◆ 新技術開発 次の主力製品開発
- 当期純利益 6 億円 ROE 5%以上を目指す

重点課題の方向性は不変
コロナ影響の挽回と収益改善に注力

重点課題の取組み

収益力 強化

- ◆受注変動に対する柔軟な生産体制
- ◆原価低減案件の積上げ
- ◆体制効率化・報酬見直し

市場 開拓

- ◆内外連携によるグローバル車受注
- ◆非日系EVメーカー等の受注獲得
- ◆住設資材他非自動車分野の開拓

新技術 開発

※開発テーマの中から2事例紹介

新技術開発 開発テーマ（例）

NO	分野	開発テーマ	期待する効果	SDGsとの関連
1	自動車 内装部品	軽量・高剛性ラゲージボード（3種類） うち、1種類が軽量ゼムライト ▶ P14	軽量 高性能	7、9
2		軽量・断熱材製品	軽量・断熱	9、13
3		電磁波シールド材製品	ノイズ遮断	3、9
4		吸遮音材製品	静粛性	3、9
5	住宅	避難所用防災間仕切り・簡易ベッド	居住性の向上	11、13
6		住設資材の施工性改善	省エネ施工	7、11
7	生産工法	製品端材のダイレクト還元 ▶ P15	資源循環 省エネ	7、12、13
8		過熱蒸気加熱	省エネ	7、12

■ 研究開発費（技術者の人件費等を含む）

2021年3月期4.5億円

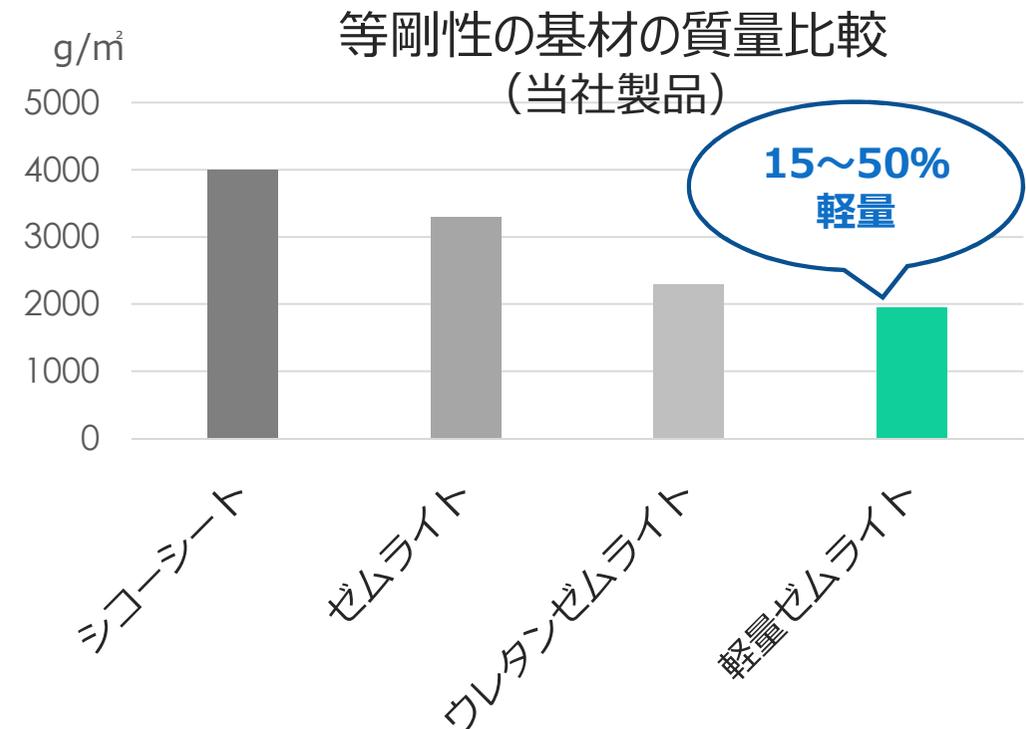
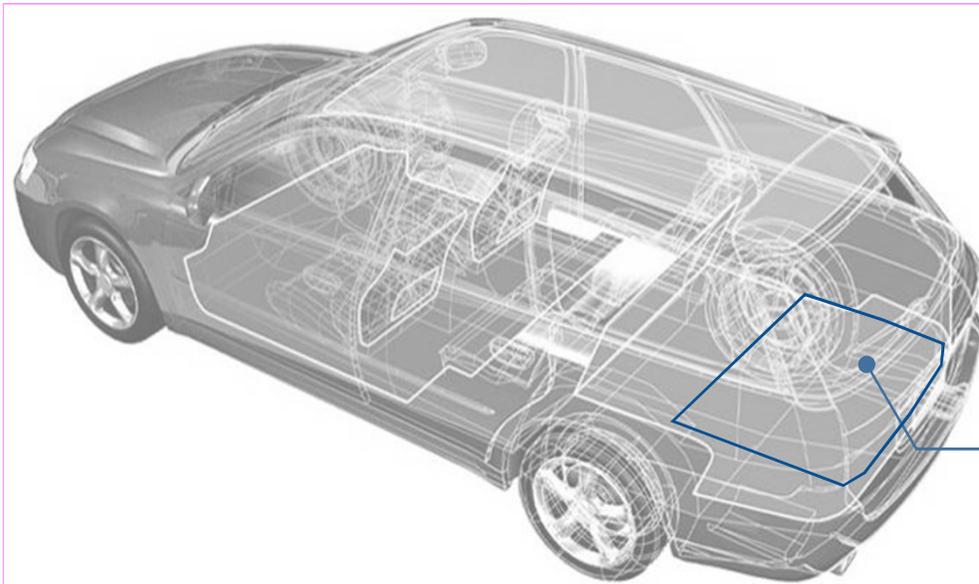
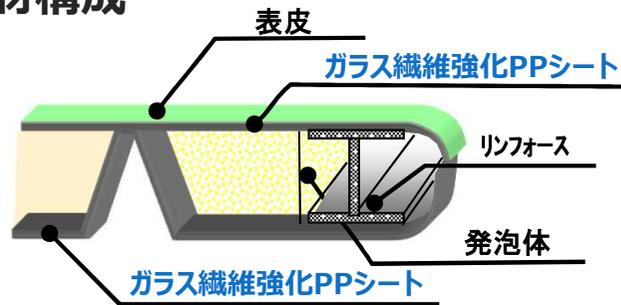
2022年3月期計画約5億円



新技術開発 軽量ゼムライト

- 軽量・高剛性のゼムライト基材がさらに軽く
- 『ガラス繊維強化PPシート』を表面材に採用

◆ 基材構成



デッキボード

新技術開発 製品端材のダイレクト還元

- 製品端材をペレット化せずダイレクトに材料還元
- リペレット工程を省きCO2排出量を削減



CO2排出量

年間 **120t** を削減



熱による
リペレット



リペレットに掛かる消費電力
316,000kw/年
×
CO2排出係数 (2020年)
0.379 kg/kwh

= CO2排出量
約120t/年

新技術フロー

従来フロー

ダイレクト還元

押出

成形

破碎
粉碎

廃止

押出

成形

破碎

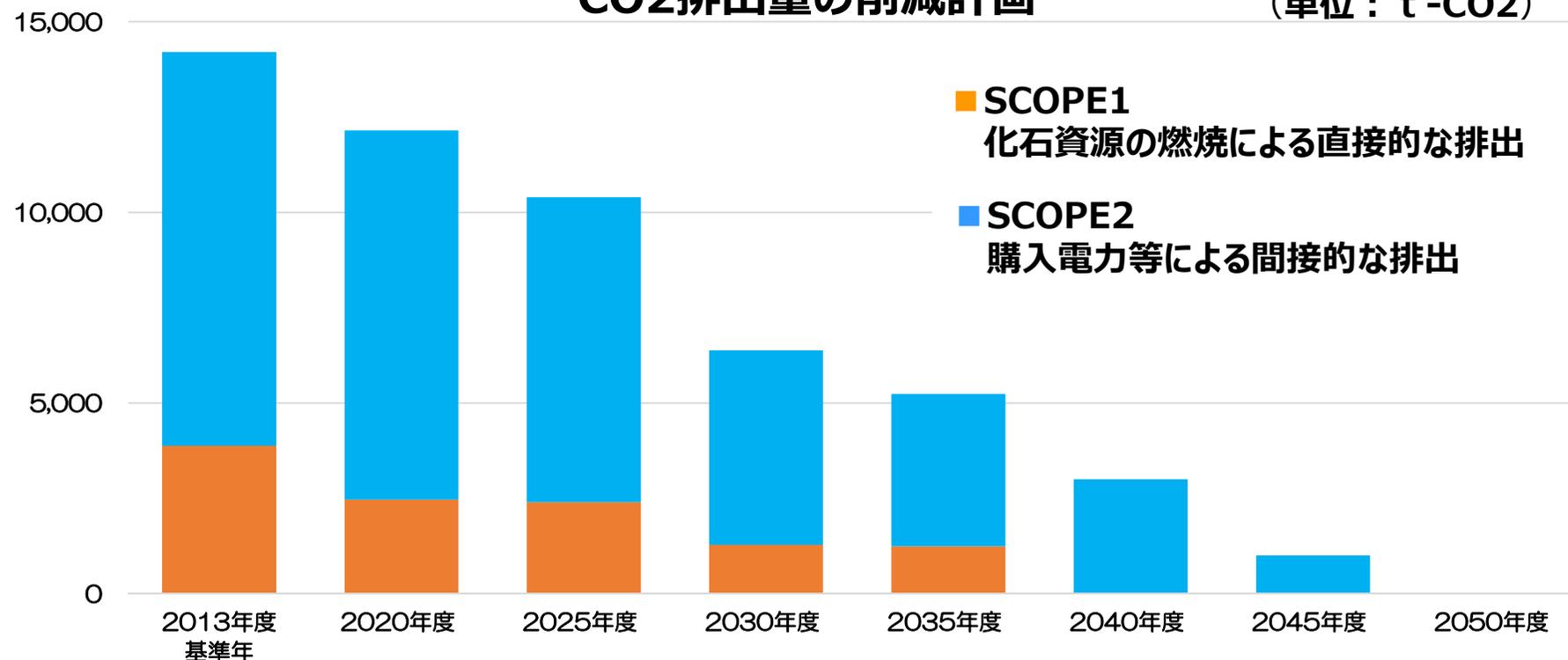
粉碎
リペレット

気候変動への取組み

目標：2050年にはカーボンニュートラルを達成
※2030年までに、2013年比で50%削減

CO2排出量の削減計画

(単位：t-CO2)



気候変動への取組み

世界規模で進む気候変動を緩和する取組みを加速します

取組み	SDGsとの関連
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生産プロセスに於けるGHG排出量の削減に向け 無駄・ロスの極小化と物流の最適化 	7、1 1 1 2、1 3
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高効率機器への設備更新 	7、1 2
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発生端材のリサイクル化で、廃棄物を削減 ※サーマル処理で発生するGHGの抑制 	7、1 2 1 3
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新製品開発による自動車の性能向上 	3、7 9、1 2



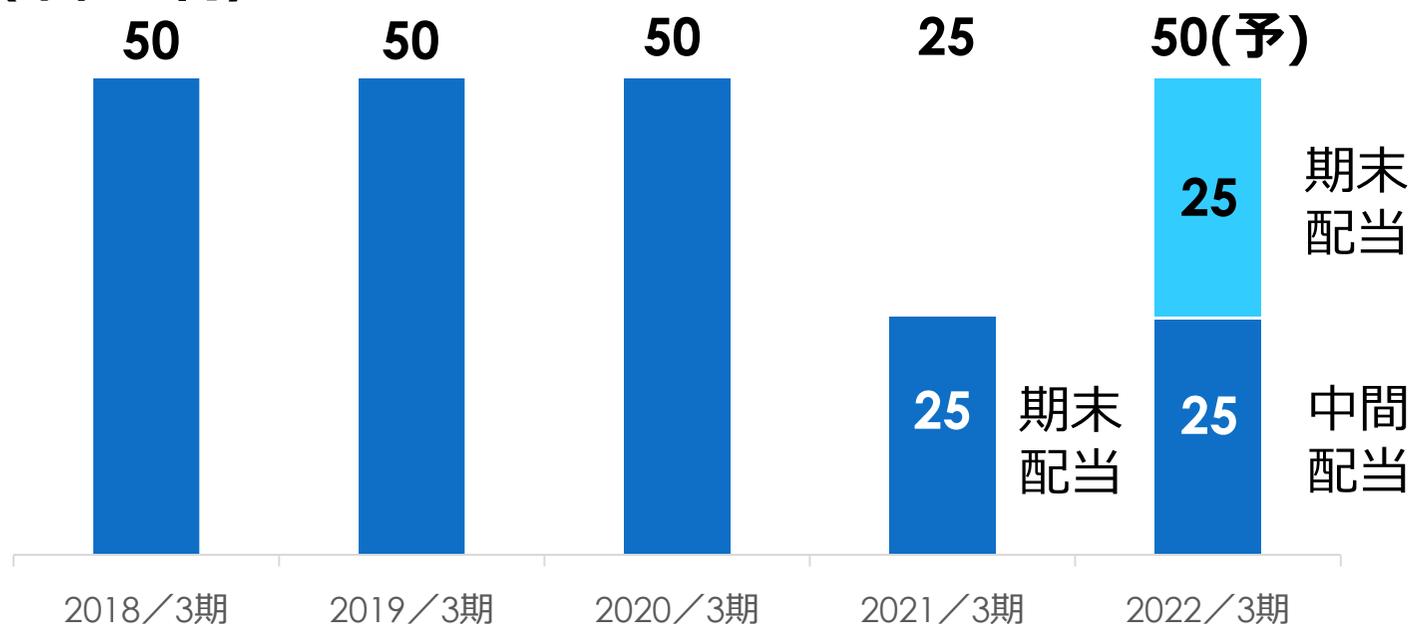
Ⅲ 株主還元

利益配分に関する基本方針

企業基盤強化のために必要な内部留保を確保しながら、安定的な配当の継続を基本に、業績および配当性向等を総合的に勘案して配当を決定

一株当たり配当金の推移

(単位：円)



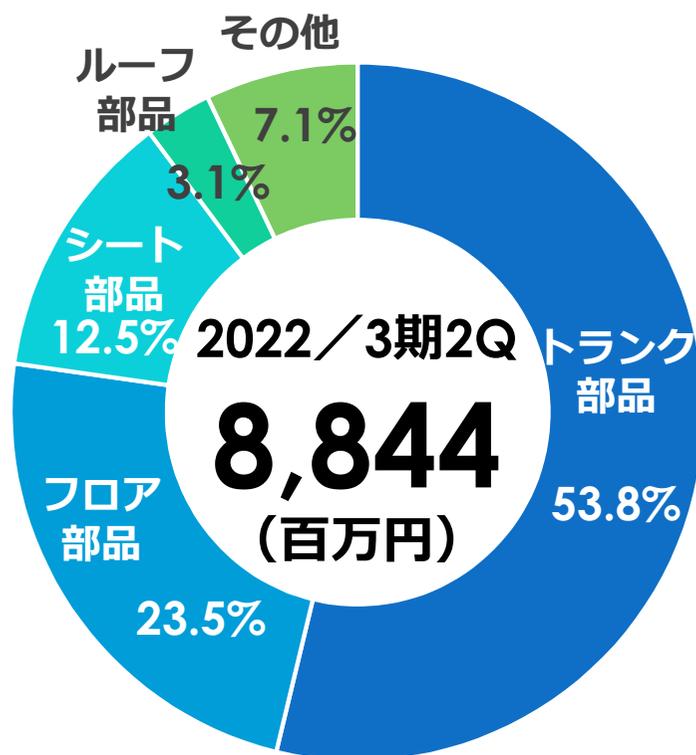
- 2022年3月期は中間配当25円を実施
- 期末配当25円、年間配当50円を見込む

IV (ご参考) 売上高の内訳等

自動車部品の部位別売上高

売上構成はトランク部品が約 5 割

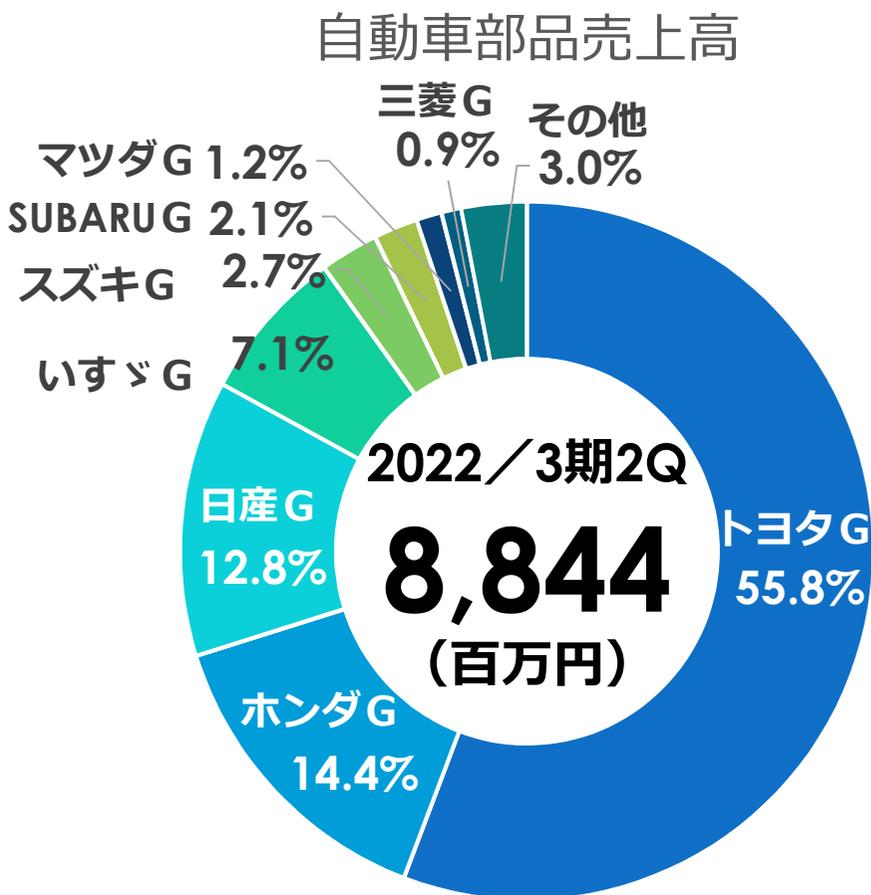
自動車部品売上高



	金額 (百万円)	構成比 (%)
■ トランク部品	4,755	53.8
■ フロア部品	2,074	23.5
■ シート部品	1,107	12.5
■ ルーフ部品	276	3.1
■ その他	630	7.1

自動車部品のメーカー別売上高

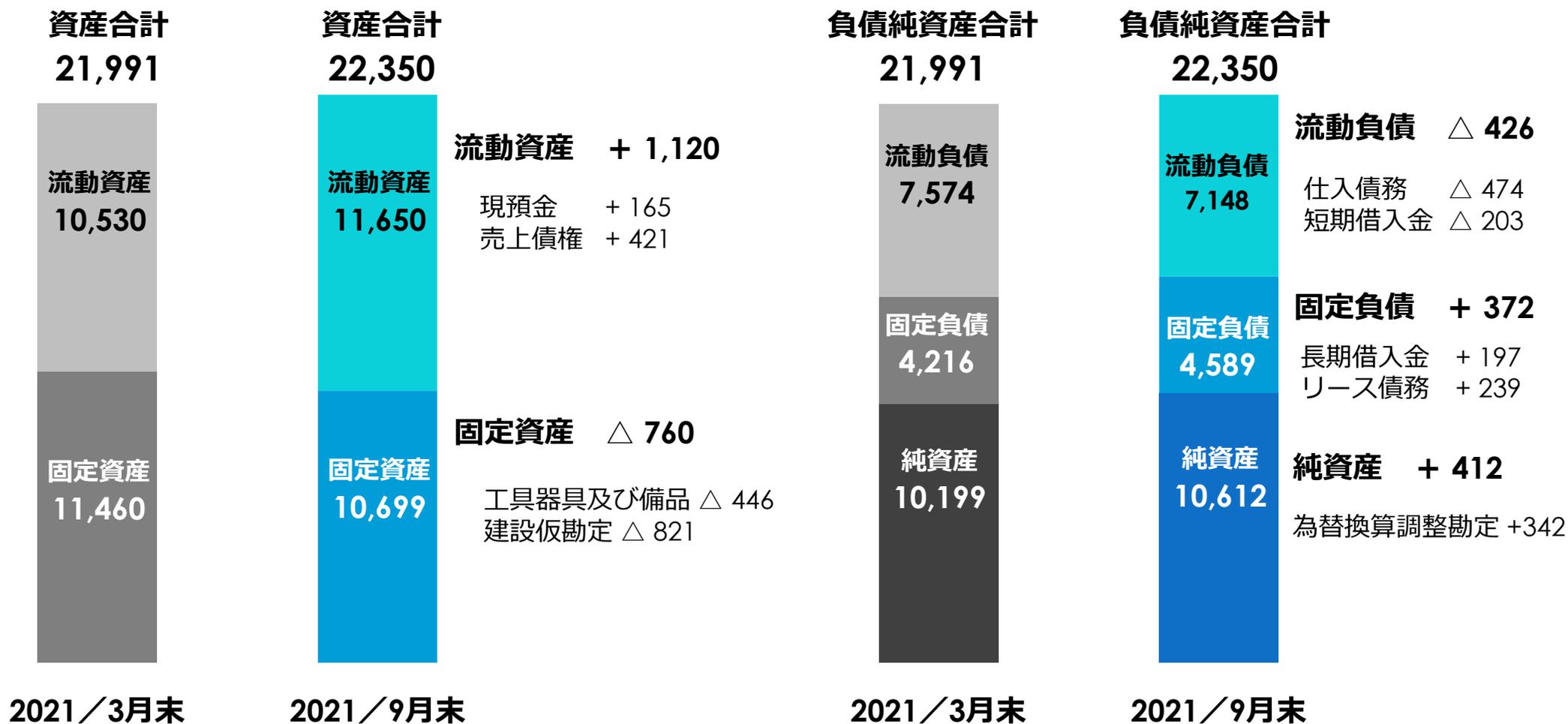
トヨタグループ向けが約6割



	金額 (百万円)	構成比 (%)
■ トヨタG	4,932	55.8
■ ホンダG	1,271	14.4
■ 日産G	1,130	12.8
■ いすゞG	630	7.1
■ スズキG	241	2.7
■ SUBARU G	181	2.1
■ マツダG	105	1.2
■ 三菱G	81	0.9
■ その他	269	3.0

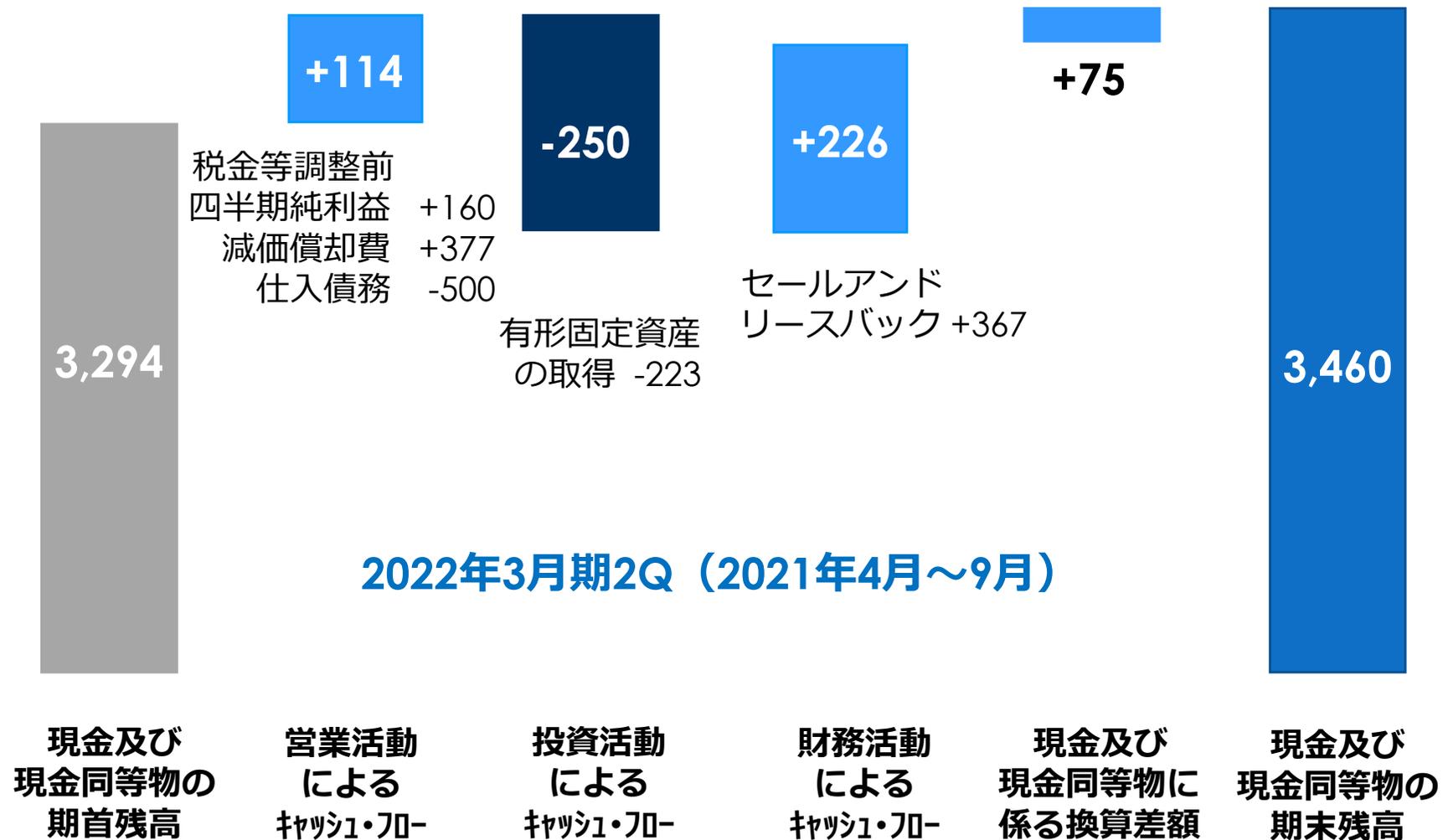
バランスシートの概要

(百万円)



キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)



本資料に記載されている将来に関する見通しは、不確定なリスク要因を含んでおります。したがって、実際の結果は様々な要因によって見通しと大きく異なる可能性があります。ご了承ください。

盟和産業株式会社

